

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人小鹿野福祉会 共生型放課後等デイサービス こかのさと		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 23日	～	令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日	～	令和7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共生型ならではの多世代交流と社会性の育成。小規模多機能ホーム併設の利点を活かし、高齢者の方々と日常的な触れ合いを大切にしています。多様な世代との関わりを育める環境が特徴です。	利用児童、高齢者お互いのペースを尊重した「顔合わせ」と「役割」を通じた自然な社会参加の機会作り。 小規模多機能ホーム併設の利点を活かし、おやつを受け渡しや食器の返却といった「日常のお手伝い」を通じて、高齢者の方々と自然に顔を合わせる機会を作っています。	お手伝いを通じた交流の中で生まれたポジティブな変化を保護者により細やかに共有し、お子様自身に繋げていきます。また、制作物を高齢者が過ごす空間に飾るなど、相互交流の機会を増やしていきます。
2	一人ひとりの個性に合わせた個別支援。少人数の特性を活かし、その日の本人のコンディションや興味に細やかに対応しています。リラックスして過ごせる環境づくりを徹底し、安心感のある支援を提供しています。	来所時の表情や言動から、その日の疲れや情緒を敏感に察知し、活動内容を柔軟に調整しています。集団の中では見落とされがちな小さなサインを大切に受け止め、本人のペースで好きなことに没頭できる、心理的な安全性の高い環境作りを行っています。	日々の活動の中で見せる細かな変化や成長を、スタッフ間で客観的に分析し、次の支援計画に反映させていきます。また、個別対応だからこそ発見できる「できた」の瞬間を写真や連絡帳を通じて保護者様へより具体的に共有し、家庭との連携をさらに深めていきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援情報の共有とサポート体制の構築。利用児童の安心感を最優先し、特定のスタッフ2名(高齢者介護兼務)が担当して支援を行っています。そのため、直接支援に関わるスタッフが固定されており、他の職員が児童と接する機会が少ないことから、支援ノウハウの共有や、いざという時のサポート体制を構築しづらい点が課題です。	環境の安定と連携のバランス。関係性の構築を重視して担当を固定しているため、直接関わりの少ないスタッフが、お子様の特性や具体的な介助方法を深く理解する機会が不足しがちになっています。	チーム全体による見守り。担当者が持つ情報をスタッフ間で共有し、共通理解を深めます。直接支援は担当者が行いつつ、周囲がいつでも的確なサポートに入れるチームでの見守り体制を構築します。
2			
3			